



實語教童子教餘師 完

才方

長安



實語教の如
 大師末代の如
 奉と教化の
 なる傷化乃
 二教中を
 法として他出
 され奉を奉
 又大洗安法
 和を奉に居
 住く奉ま
 とわつ大深
 学奉を候と
 授られし時
 作らし出く



上の世をましと
 せし二の教をも
 世に修行して
 のりへまを
 後世に
 世に修行して
 久に世を
 修行して
 修行して
 修行して
 修行して
 修行して



實語教
 童子教
 餘師

実語教
 童子教
 餘師

實語教

山高故不貴 樹有以て貴 人為 人肥故 貴有と以て貴 富は一生の財 身減す身即 共に減す 智は是万代の

實語教

實の語として人の教する。云々

山高故不貴以有樹為貴

樹有と以て貴 人為 人肥故不貴以有智為貴

富は一生の財 身減す身即 共に減す 智は是万代の

命終身即隨 玉磨不バ光無 光無をバ石瓦 人為 人肥故不貴以有智為貴

倉の内財は 身の内財は 朽と無

倉の内財は 身の内財は 朽と無

代材命終身即隨

命終身即隨

玉磨不バ光無

玉磨不バ光無

光無をバ石瓦

人為 人肥故不貴以有智為貴

人為 人肥故不貴以有智為貴

倉の内財は 身の内財は 朽と無

倉の内財は 身の内財は 朽と無

倉の内財は 身の内財は 朽と無

千両の金と積

と雖

一日の學

如不

兄弟常

不

慈悲と兄弟

為

財物永く存せ

不

才智と財物

為

四大日

衰

心神夜々

暗

幼時不動學不

老後小恨悔

雖

尚益

故書と讀て倦

勿

學文小怠る時

然れ

出されば

用ふ

積

不如一日學

兄弟常不

慈悲と兄弟

財物永く存せ

才智と財物

四大日

積積子有金

不如一日學

兄弟常不

慈悲と兄弟

財物永く存せ

才智と財物

四大日

衰

心神夜々

暗

幼時不動學不

老後小恨悔

雖

尚益

故書と讀て倦

勿

學文小怠る時

然れ

財物永く存せ

才智と財物

四大日

衰

心神夜々

暗

幼時不動學不

老後小恨悔

雖

尚益

故書と讀て倦

勿

學文小怠る時

然れ

財物永く存せ

眠と除て通夜
誦せよ
飢と忍て終日
習ふ
師ふ會し雖学
徒ふ市人ふ向
習讀と雖復せ
不バ
只隣の財と計
君子ハ智者と

除眠通夜誦忍飢終日
誦
飢
習
師
徒
習
不
只
君
愛
小
人
ハ
福
人
ト
愛
す
富
貴
ノ
家
ハ
入
と
雖
無
人
ノ
爲
ト
者
猶
霜
ノ
下
ノ
花
ノ
如
貧
賤
ノ
門
ト
出
る
と
雖
智
有
人
ノ
爲
ト
者
宛
泥
中
ノ
蓮
ノ
如
父
母
ハ
天
地
ノ

如天比師君如日月

如天比師君如日月
父母
如天比師君如日月
父母
如天比師君如日月
父母

無為の都、樂ありと雖、放逸の輩、遊老と敬、父母の如く、幼と愛する、子弟の如く、我他人と敬者、他人亦我を敬、己人の親と敬、人亦己を敬

無為の都、樂ありと雖、放逸の輩、遊老と敬、父母の如く、幼と愛する、子弟の如く、我他人と敬者、他人亦我を敬、己人の親と敬、人亦己を敬

如子弟、敬老如父母、老幼、我教他人、老成人亦教我、己教人、親老人亦教己、親

如子弟、敬老如父母、老幼、我教他人、老成人亦教我、己教人、親老人亦教己、親

如子弟、敬老如父母、老幼、我教他人、老成人亦教我、己教人、親老人亦教己、親

如子弟、敬老如父母、老幼、我教他人、老成人亦教我、己教人、親老人亦教己、親

如子弟、敬老如父母、老幼、我教他人、老成人亦教我、己教人、親老人亦教己、親

如子弟、敬老如父母、老幼、我教他人、老成人亦教我、己教人、親老人亦教己、親

己が身と達せんと欲する者、先他人と達せ、他人之愁と見、即自も共小患、他人之喜と聞、則自も共に悦、善と見て者速、小行ひ

己が身と達せんと欲する者、先他人と達せ、他人之愁と見、即自も共小患、他人之喜と聞、則自も共に悦、善と見て者速、小行ひ

己が身と達せんと欲する者、先他人と達せ、他人之愁と見、即自も共小患、他人之喜と聞、則自も共に悦、善と見て者速、小行ひ

己が身と達せんと欲する者、先他人と達せ、他人之愁と見、即自も共小患、他人之喜と聞、則自も共に悦、善と見て者速、小行ひ

己が身と達せんと欲する者、先他人と達せ、他人之愁と見、即自も共小患、他人之喜と聞、則自も共に悦、善と見て者速、小行ひ

己が身と達せんと欲する者、先他人と達せ、他人之愁と見、即自も共小患、他人之喜と聞、則自も共に悦、善と見て者速、小行ひ

己が身と達せんと欲する者、先他人と達せ、他人之愁と見、即自も共小患、他人之喜と聞、則自も共に悦、善と見て者速、小行ひ

己が身と達せんと欲する者、先他人と達せ、他人之愁と見、即自も共小患、他人之喜と聞、則自も共に悦、善と見て者速、小行ひ

己が身と達せんと欲する者、先他人と達せ、他人之愁と見、即自も共小患、他人之喜と聞、則自も共に悦、善と見て者速、小行ひ

己が身と達せんと欲する者、先他人と達せ、他人之愁と見、即自も共小患、他人之喜と聞、則自も共に悦、善と見て者速、小行ひ

己が身と達せんと欲する者、先他人と達せ、他人之愁と見、即自も共小患、他人之喜と聞、則自も共に悦、善と見て者速、小行ひ

己が身と達せんと欲する者、先他人と達せ、他人之愁と見、即自も共小患、他人之喜と聞、則自も共に悦、善と見て者速、小行ひ

故未代の学者
先此書と案は
可

是学問之始
身終才勿忘失
すこと勿

實語教終

童子教

夫貴人の前
居し
頭露小立と
得不得
道路に遇
跪て過よ
召事有ハ敬
承し
両手と胸小當
て向へ
慎て左右と顧
不

故未代学者先可案此

書 前文とて故未代の学者との初学

是学問之始 を初めのふらふあはれしむるなりが

始終才勿忘失 是とやえんは実語教

始はしめて終は實の教と
一生にすしむるをれし

實語教終

童子教

夫貴人前居居露不立

得不得 是とやえんは実語教

道路に遇 を初めのふらふあはれしむるなりが

跪て過よ 是とやえんは実語教

召事有ハ敬 是とやえんは実語教

承し 是とやえんは実語教

胸向怯不顧左右 是とやえんは実語教

不問者 是とやえんは実語教

問不者答不
仰有者謹で聞

三寶よハ三礼

と神明よハ再拜

と致せ

人間ハ一礼

師君ハ頂戴す

墓と過時ハ則

社と過時ハ則

堂塔の前ハ向

て不浄と行ふ

可不可

聖教の上ハ向

て無礼と致す

人倫禮有者

朝廷必法有

不者為作者謹聞

三寶よハ三礼

と神明よハ再拜

と致せ

人間ハ一礼

師君ハ頂戴す

墓と過時ハ則

社と過時ハ則

堂塔の前ハ向

て不浄と行ふ

可不可

聖教の上ハ向

て無礼と致す

人倫禮有者

朝廷必法有

禮記ハ不問不故

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

禮記ハ不問不故

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

禮記ハ不問不故

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

禮記ハ不問不故

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

禮記ハ不問不故

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

人而礼無者
 衆中又過有
 衆小交て雜言
 事畢者速に避
 違不
 事小觸て朋小
 言語離ことと
 得不
 語多者ハ品少
 老とる狗の友
 と吠が如

人而礼無者
人礼無者

衆中又過有
衆中又過有

衆小交て雜言
衆小交て雜言

事畢者速に避
事畢者速に避

違不
違不

事小觸て朋小
事小觸て朋小

言語離ことと
言語離ことと

得不
得不

語多者ハ品少
語多者ハ品少

老とる狗の友
老とる狗の友

と吠が如
と吠が如

懈怠の者ハ食
 疲る様の菓
 と貪が如
 勇者ハ必危と
 夏の虫の火よ
 鈍者ハ又過無
 春の鳥の林小
 遊が如
 人の耳者壁に
 付

懈怠の者ハ食
懈怠の者ハ食

疲る様の菓
疲る様の菓

と貪が如
と貪が如

勇者ハ必危と
勇者ハ必危と

夏の虫の火よ
夏の虫の火よ

鈍者ハ又過無
鈍者ハ又過無

春の鳥の林小
春の鳥の林小

遊が如
遊が如

人の耳者壁に
人の耳者壁に

付
付

交流不雜云事早も速遊
交流不雜云事早も速遊

福事不
福事不

遠朋言終不得就
遠朋言終不得就

語多老品少老狗
語多老品少老狗

如吠友
如吠友

懈怠者急食疲様如貪菓
懈怠者急食疲様如貪菓

勇者必有危憂
勇者必有危憂

虫如入火就者又過無
虫如入火就者又過無

春如遊林
春如遊林

人の耳者壁に
人の耳者壁に

付
付

文選崔子王庭右詔小守愚聖所感
文選崔子王庭右詔小守愚聖所感

人耳者付
人耳者付

付
付

密シ小コ而ニ也ナリ。讒シ言ハ。
 人ノ眼ヲ者ト天ノ懸ル。
 隱シ而モ犯ス用コ。
 車ハ三寸之ノ轄ト。
 千里ノ路ヲ遊ス。
 行ス三寸之ノ舌ト。
 五尺之ノ身ト。
 損ス。

口ハ是レ禍ノ之ノ根ト。
 舌ハ是レ禍ノ之ノ根ト。
 口ト使シ鼻ノ如ク。
 身ト終ニ身ヲ敢ス。
 事無。
 過言一言出ス。
 者追不返舌ト。
 返不。

密シ而モ勿レ讒シ言ス。
 人ノ眼ヲ者ト天ノ懸ル。

隱シ而モ犯ス用コ。
 車ハ三寸之ノ轄ト。

千里ノ路ヲ遊ス。
 行ス三寸之ノ舌ト。

五尺之ノ身ト。
 損ス。

口ハ是レ禍ノ之ノ根ト。
 舌ハ是レ禍ノ之ノ根ト。

口ト使シ鼻ノ如ク。
 身ト終ニ身ヲ敢ス。

事無。
 過言一言出ス。

口ハ是レ禍ノ之ノ根ト。
 舌ハ是レ禍ノ之ノ根ト。
 口ト使シ鼻ノ如ク。
 身ト終ニ身ヲ敢ス。
 事無。
 過言一言出ス。
 者追不返舌ト。
 返不。

白圭の玷るハ
 磨可
 惡言の玷るハ
 磨難
 禍福者門無
 唯人の招所
 在
 天の作る災ハ
 避つ可
 自作る災ハ
 難

白圭非可磨。惡言非難磨。禍福者門無。唯人の招所。天の作る災ハ。避つ可。自作る災ハ。難。

夫積善之家
 必餘慶有矣
 又好惡之處
 必餘殃有矣
 人と而陰德有
 必陽報有矣
 人と而陰行有
 必昭名有矣

夫積善之家必
 有餘慶矣。又好
 惡之處必餘殃
 矣。人而陰德有
 必陽報有矣。人
 而陰行有必昭
 名有矣。

信力堅固の門

災禍の雲起

念力強盛の家

福祐の月光

心の同不ハ面

譬氷の器ハ

他人の引と施

他人の馬に騎

前車之覆と見

後車之誠と為

前事之忘不と為

後事之師と為

善立而名流
寵極而禍多

信力堅固の門

災禍の雲起

念力強盛の家

福祐の月光

心の同不ハ面

譬氷の器ハ

他人の引と施

他人の馬に騎

前車之覆と見

後車之誠と為

前事之忘不と為

後事之師と為

善立而名流
寵極而禍多

信力堅固

念力強盛

福祐の光

心の同不

譬氷の器

他人の引

他人の馬

前車之覆

後車之誠

前事之忘

後事之師

善立而名流
寵極而禍多

如水の如

如氷の器ハ

他人の引と施

他人の馬に騎

前車之覆と見

後車之誠と為

前事之忘不と為

後事之師と為

善立而名流
寵極而禍多

信力堅固

念力強盛

福祐の光

人者死而名と
留
虎者死而皮と
留
國上と治る賢
王
鰥寡と侮こと
勿矣

君子人と譽ふ
則民怨と作矣
境入而ハ禁
國入而ハ俗
郷入而ハ郷
俗入而ハ俗
門入てハ先
諱と問てハ先
主人と教せん

流寇たむ福多。留めしすれ本分と也
のあれてとえぬや此その

名のこるとたう又人に留むせううのわまうたはれがうた
ふもてしてつひつひのせうりのまわらひ子服とつて人まきしに

人者
のす挑のわまうとたうとわらわらうたはれがうた
けつこのとえらうたはれがうた

死留名。虎去死留皮。留
留

治王
虎の皮は人の皮よりあつたの故死ても皮を留むるを
もてて人も死て後まても皮を留むるを

上賢王勿侮鰥寡矣。孟
妻々々々

留むといひ老て又老て又老て又老てといふとわらわらうたはれがうた
をんは愛使わらうたはれがうた

君子不卷人。民作怨矣。

け君子は老の老をて後のもて人々を云その後あつた人々もよと
われは留むるをすまきと後のもて人々を云その後あつた人々もよと

入境而問禁。入國而問俗。

入郷而隨。入俗而隨。

礼記の文ありはとてはれがうたはれがうたはれがうたはれがうた
とてその後あつた人々を云その後あつた人々もよと

入門
留むといひ老て又老て又老て又老てといふとわらわらうたはれがうた
をんは愛使わらうたはれがうた

先問諱。為教主人也。是礼記の文
人の教はれがうた

が為也
君の所みハ私
の諱無
無二の尊号也

愚者ハ遠慮無
必近憂有可

管と用て天と
闕ガ如
錐と用て地と
指小似と

神明ハ愚人と
殺すハ非懲令
ガ為あり
師匠の弟子と
打ハ非能令
ガ為あり
生かつらに而
貴者ハ無
習修して智徳
と成
貴者ハ必富不
富者ハ必貴の

君の所みハ私
の諱無
無二の尊号也
君の所みハ私
の諱無
無二の尊号也

諱無二の尊号也

愚者ハ遠慮無
必近憂有可

如用管闕天似利錐指地

如用管闕天似利錐指地

神の明ハ愚人の
殺すハ非懲令
ガ為あり
師匠の弟子と
打ハ非能令
ガ為あり
生かつらに而
貴者ハ無
習修して智徳
と成
貴者ハ必富不
富者ハ必貴の

神の明ハ愚人の
殺すハ非懲令
ガ為あり
師匠の弟子と
打ハ非能令
ガ為あり
生かつらに而
貴者ハ無
習修して智徳
と成
貴者ハ必富不
富者ハ必貴の

神の明ハ愚人の
殺すハ非懲令
ガ為あり
師匠の弟子と
打ハ非能令
ガ為あり
生かつらに而
貴者ハ無
習修して智徳
と成
貴者ハ必富不
富者ハ必貴の

神の明ハ愚人の
殺すハ非懲令
ガ為あり
師匠の弟子と
打ハ非能令
ガ為あり
生かつらに而
貴者ハ無
習修して智徳
と成
貴者ハ必富不
富者ハ必貴の

神の明ハ愚人の
殺すハ非懲令
ガ為あり
師匠の弟子と
打ハ非能令
ガ為あり
生かつらに而
貴者ハ無
習修して智徳
と成
貴者ハ必富不
富者ハ必貴の

神の明ハ愚人の
殺すハ非懲令
ガ為あり
師匠の弟子と
打ハ非能令
ガ為あり
生かつらに而
貴者ハ無
習修して智徳
と成
貴者ハ必富不
富者ハ必貴の

神の明ハ愚人の
殺すハ非懲令
ガ為あり
師匠の弟子と
打ハ非能令
ガ為あり
生かつらに而
貴者ハ無
習修して智徳
と成
貴者ハ必富不
富者ハ必貴の

悪人か順て避

不犬の柱と廻

善人か馴て離

大船の海に浮

善友か随順す

れ者中の蓬の

直あるが如く

親と離て疎師

業と習戒定恵の

根性愚鈍あり

と雖好一自學

習へば三十字と

一字一金か當

點多生を助く

順悪人不避他犬如也柱
別善人不離大船如浮海

善友如随順す
大船の海に浮

善友如随順す
れ者中の蓬の
悪友如如蓬の中

親と離て疎師
業と習戒定恵の
根性愚鈍あり

と雖好一自學
戒定恵業根性愚鈍好

自致學位
學者の位あると直も子に易て教ふといふをていひて

一日指一字二百六十字一字
南子令一熱助多生

と酒性と静て
義理と案せよ

習讀とも意小
入不バ醉寐く

千卷と讀とも
復せ不ハ財無

如て町ハ臨ガ
薄衣之冬夜も

寒と忍て通夜
誦トよハ夏ノ

日ハ飢と除て
終日に習

酒ハ酔バ心狂
乱寸食過まバ

学文ハ倦
身と温みすれバ

睡眠と増身と
安すれバ解急

起
匡衡ハ夜学ノ

爲に壁と鑿て
那光と招

匡衡ハ夜学ノ
爲に壁と鑿て
那光と招

静性案義理

不入意如醉寐

復吾財如臨町

薄衣之冬夜忍

誦トよハ夏ノ

日ハ飢と除て

酒ハ酔バ心狂

乱寸食過まバ

学文ハ倦

身と温みすれバ

睡眠と増身と

安すれバ解急

起

匡衡ハ夜学ノ

静性案義理
の經典とよハ夏ノ

不入意如醉寐
の經典とよハ夏ノ

復吾財如臨町
の經典とよハ夏ノ

薄衣之冬夜忍
の經典とよハ夏ノ

誦トよハ夏ノ
の經典とよハ夏ノ

日ハ飢と除て
の經典とよハ夏ノ

酒ハ酔バ心狂
の經典とよハ夏ノ

乱寸食過まバ
の經典とよハ夏ノ

学文ハ倦
の經典とよハ夏ノ

身と温みすれバ
の經典とよハ夏ノ

睡眠と増身と
の經典とよハ夏ノ

安すれバ解急
の經典とよハ夏ノ

起
の經典とよハ夏ノ

匡衡ハ夜学ノ
の經典とよハ夏ノ

習讀とも意小

入不バ醉寐く

千卷と讀とも

復せ不ハ財無

如て町ハ臨ガ

薄衣之冬夜も

寒と忍て通夜

誦トよハ夏ノ

日ハ飢と除て

終日に習

酒ハ酔バ心狂

乱寸食過まバ

学文ハ倦

身と温みすれバ

睡眠と増身と

安すれバ解急

起

匡衡ハ夜学ノ

孫敬の学文の
爲か戸を閉て
人と通不

蘇秦の学文の
爲か錐と股か
刺て眠不

俊敬の学文の
爲に繩と頸か
懸て眠不

車胤の夜学を好
て螢を聚て燈
と爲矣

宣士夜学を好
て雪と積て燈
と爲矣

休穆の学文の
意と入て冠之落
ると知不

高鳳の学文の
意と入て夢之流

孫敬の学文の爲か戸を閉て人と通不
孫敬の学文の爲か戸を閉て人と通不
孫敬の学文の爲か戸を閉て人と通不

困戸不通人
困戸不通人
困戸不通人

蘇秦の学文の爲か錐と股か刺て眠不
蘇秦の学文の爲か錐と股か刺て眠不
蘇秦の学文の爲か錐と股か刺て眠不

不眠
不眠
不眠

俊敬の学文の爲に繩と頸か懸て眠不
俊敬の学文の爲に繩と頸か懸て眠不
俊敬の学文の爲に繩と頸か懸て眠不

爲に繩と頸か懸て眠不
爲に繩と頸か懸て眠不
爲に繩と頸か懸て眠不

車胤の夜学を好て螢を聚て燈と爲矣
車胤の夜学を好て螢を聚て燈と爲矣
車胤の夜学を好て螢を聚て燈と爲矣

宣士夜学を好て雪と積て燈と爲矣
宣士夜学を好て雪と積て燈と爲矣
宣士夜学を好て雪と積て燈と爲矣

休穆の学文の意と入て冠之落ると知不
休穆の学文の意と入て冠之落ると知不
休穆の学文の意と入て冠之落ると知不

高鳳の学文の意と入て夢之流
高鳳の学文の意と入て夢之流
高鳳の学文の意と入て夢之流

不知冠之落
不知冠之落
不知冠之落

高鳳入文意不
高鳳入文意不
高鳳入文意不

高鳳入文意不
高鳳入文意不
高鳳入文意不

と結矣
龜老史記と誦

すれは古骨の
膏づくことと得

伯英ハ九歳ニ
初て早博

士の位ニ到
宋史ハ七十ニ

好て師傅ヲ登

智者ハ下劣カ
りト雖高基之

閣小登
愚者ハ高位ニ

と雖奈利之底
小墮

智者ノ作也
罪者大ニ墮不

地獄ノ墮不
愚者ノ作也

罪者ハ多クモ
必地獄ニ墮

愚者ハ常に憂

二

二

龜老史記と誦
伯英ハ九歳ニ初て早博

士の位ニ到
宋史ハ七十ニ好て師傅ヲ登

智者ハ下劣カリト雖高基之
閣小登愚者ハ高位ニと雖奈利之底小墮

智者ノ作也罪者大ニ墮不地獄ノ墮不愚者ノ作也

罪者ハ多クモ必地獄ニ墮愚者ハ常に憂

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

と懐璧獄中
の囚の如
智者の常
樂の猶光音天
の如

父の恩ハ山於
も高須弥山於
尚下
母の徳ハ海於
深滄溟の海還
淺

白骨者父の
赤肉者母の
赤白の體
一語身分
と成

胎内に處
十月身心直
苦勞

胎外生て數
年父母の養育
と蒙

為懐璧獄中囚智者
常欽樂於如光音天

父慈
肉と云ふは天ある人ありて光ありて難く自盡せざる

高須弥山為下母徳
深滄溟の海還

赤白の體一語身分
と成

白骨者父の
赤肉者母の

赤白の體一語身分
と成

胎内に處
十月身心直
苦勞

胎外生て數
年父母の養育
と蒙

母養育

母

昏者父の膝に
居て摩頂と蒙
る多
夜者母の懐に
卧て乳味と費
と数斛

朝は山野下
交て蹄と殺て
妻子と養
暮は江海干
臨て鱗と漁て
身命と資

旦暮の命を資
為は日夜悪業
と造

朝夕の味と嗜
が為は多劫地
獄に墮

恩を戴て恩を
知不は樹の鳥
の枝と枯が如
徳と蒙て徳と
思不は野の鹿
の草と損する

昏者父の膝に居て摩頂と蒙る多
夜者母の懐に卧て乳味と費と数斛

朝は山野下交て蹄と殺て妻子と養
暮は江海干臨て鱗と漁て身命と資

旦暮の命を資為は日夜悪業と造

朝夕の味と嗜が為は多劫地獄に墮

恩を戴て恩を知不は樹の鳥の枝と枯が如徳と蒙て徳と思不は野の鹿の草と損する

よかゝ悪
おどと
乃資旦暮命日夜造

悪業
是が文とてつてのあめくあけの命
とる入るは日夜は造悪業のそとをり

乃嗜朝夕味多劫墮地獄

戴恩不知恩如樹鳥

枯枝蒙徳不思徳如野鹿

損草

人の恩を戴て恩を知らず樹の鳥の枝に依りて徳を蒙りて徳を思はず野の鹿の草を損する

が如く
酹夢其父と打
裂て天雷其身と

班婦其母と罵
吸て靈蛇其命と

郭巨ハ母と養
が爲小穴と掘
て金の釜と得

酹夢其父と打裂て天雷其身と
酹の夢を打つて天雷を降らす事
周愛打其

父天雷裂て身
酹の世の酹夢と云ふ
父かて不孝の心あり

班婦罵其母
班婦と罵る事
母を罵る事

蛇吸て命
蛇が命を吸つて死ぬ事
命を吸つて死ぬ事

郭巨爲母養
郭巨が母を養ふ事
母を養ふ事

掘小穴金釜
小穴を掘りて金釜を得る事
金釜を得る事

姜詩ハ自婦と
去て水と汲て
庭小泉と得

姜詩ハ自婦と
姜詩が自給する事
自給する事

汲水庭泉
庭に泉を掘りて水を汲る事
水を汲る事

姜詩ハ自婦と
姜詩が自給する事
自給する事

孟宗竹中に
哭して深雪の中
に筍を抜

王祥歎て氷と
即堅凍の上と
に魚踊

舜子盲父と養
深泣すは両
眼開

刑渠老母を養
ひ食と嚙と齧
若成

董永一身と賣
て孝養の御器
に備

孟宗哭竹中。深雪中拔笋。

孟宗といひ人の母をいけりてこのむむ孟宗竹の根へ入る
かけしものいふんたれは若の竹より竹の子をえんとてあつ

王祥歎て氷と即堅凍の上とに魚踊

王祥といひ人すくもこの冬中に生る魚とこの冬に氷の冬
所をひきとれはあつものつとけて紀二ツとてとてとて

舜子養盲父。深泣困両眼

舜といひ人の母をいけりてこのむむ舜といひ人の母をいけりてこのむむ
といひ盲父ありて後の妻のいんげんを舜とてとてとてとて

深泣すは両眼開

刑渠老母を養ひ食と嚙と齧若成

刑渠といひ人の母をいけりてこのむむ刑渠といひ人の母をいけりてこのむむ

老母嚙食成齡若

老母といひ人の母をいけりてこのむむ老母といひ人の母をいけりてこのむむ

董永賣一身御器に備

董永といひ人の母をいけりてこのむむ董永といひ人の母をいけりてこのむむ

董永賣一身御器に備

揚威独の母と
念て虎の前
啼て害と免る

顔烏墓み土と
負ハ鳥鳥来て
運埋

許致自墓と作
松栢生て墓と
作

此等の人皆皆
父母小孝養と
致して
佛神憐愍と非
望所悉成就
生死の命ハ無
常あり野く
祭と欣可
煩腦の身ハ不
淨あり速に善
提と求可

揚威念独母虎前啼免害也

顔烏墓有土鳥考来運埋

許致自化墓松

栢生作墓

此等の人皆皆父母小孝養也

佛神憐愍亦皆悉成就

生死の命ハ無常あり野く

祭と欣可煩腦の身ハ不淨あり速に善提と求可

身不淨速可求善提

煩腦の身ハ不淨あり速に善提と求可

量

三十三

厭ても厭可い
婆婆く會者定
離の苦
恐ても恐可い
六道く生者必
滅の悲

壽命ハ蜂蟻の
如く朝小生て
夕小死すを
身休ハ芭蕉の
如く

如風に隨て壞
易く矣

綾羅錦繡者全
冥途の貯み非
ず

黄金珠玉者只
一世の財宝

栄花栄耀者更
に佛道の資小
非
官位龍職者唯

厭可厭婆婆。今若くは難若

恐可恐六道生者必滅悲

壽命ハ蜂蟻の如く朝小生て夕小死すを身休ハ芭蕉の如く

如風に隨て壞易く矣

綾羅錦繡者全冥途の貯み非ず

黄金珠玉者只一世の財宝

栄花栄耀者更に佛道の資小非官位龍職者唯

芭蕉隨風易壞矣

綾羅錦繡者全非

冥途行

黄金珠玉者只一世財

宝

栄花栄耀者更に佛道資

小非官位龍職者唯

現世の名聞

龜鶴之契と致
も露命の消不

駕鴛之衾と重
も身体の壞不

切利摩尼殿も
遷化の無常と

志唯現世名聞官位つとくわの現

致無轉之契名とくことちり

命不消禪轉無の長命

重智考考と衾身体不

壞不切利

切利切利

摩尼殿秋遷化名乃切利

大梵高臺の閣
も火血刀の若

須達之十徳も
無常於面と

大梵高臺の閣大梵

悲火血刀若大梵

須達之十須達

法名當於名乃須達

須達之十徳も無常於面と

己が爲す諸人
小施さば報と
得と芥子の如

砂と聚て塔と
爲人早黄金の
膚と研

花と折て佛小
供する輩ハ速
小蓮臺小跌と

一句信受の力
も轉輪王の位

半偈聞法の徳
も三千界の宝
小勝と

上ハ須佛道と
求須中ハ四恩

と報す可
下ハ偏六道に
及ハ共小佛道
と成可

幼童と誘引せ

法人得報也芥子。慈悲の心を以て

聚砂爲塔人早研黃砂を聚めて塔を造る人は早く黄金の

令膚黄金の膚を研ぎ

折花供佛案速結花を折って佛に供する輩は速に

蓮臺蓮の臺に

一句信受力起轉一句の信受の力で轉輪王の位

半偈聞法徳半偈の法を聞いて徳を得る

三千界の宝三千世界の宝

上須佛道上は佛道を求め

報す可報するに可

下偏六道下は偏六道に及

及共小佛道及は共に小佛道を成

2500

Handwritten signature or calligraphy in black ink, possibly a name or a date, written vertically.

